



「頑張ろうニッポン！」

サッカー界では様々な取り組みが！

いち早く動き出した日本サッカー界。記憶に新しい3月29日に行われたサッカー慈善試合「日本代表 vs Jリーグ選抜」そしてカズのゴール。そくそくと被災地に足を運んでくれるプロサッカー選手。そして、開幕したJリーグ。開幕戦のベガルタ仙台逆転勝利。海外の新聞ではこう日本を紹介しています。
「大地震が発生し、日本は次々と大惨事に見舞われている。しかし、日本社会はお互いに助け合い、団結力を見せている。日本サッカー界はその一例だ」



魅せた！
カズダンス！

サッカー慈善試合、22.5%の高視聴率を記録 ※瞬間最高 26.5%



ベガルタ仙台的逆転劇！



アバン かわらばん



2011年
5月号

アバンツァーレジュニアサッカークラブ会報誌

アバンツァーレからのお願い！

この度の東日本大震災で被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災による、沿岸部の甚大なる被害、社会の混乱、それによる人々の不安はあまりにも大きく、被災地はもとより、日本中の人々が無力感に襲われたと察します。

そんな中、何か私達にできることはないかと、震災直後、何とか手に入れた大量の餅をクラブの子ども達に焼いて食べさせました。しかし、以前までの子ども達の様子とは違いました。どこか暗さを感じました。

その後も順次、できることから練習を再開しましたが、やはり子ども達に本来の明るさを感じませんでした。

それが最近になってようやく明るさを感じるようになってきました。とにかく、やり続けた結果だろうと思います。ただ、震災によって悲惨な映像を繰り返し見ることによって体調を害する子ども達も増えてきています。

そんな体験を経て、私たちの出来ることとは一体なんだろうと考えたとき、それは「子ども達が憧れとする大人を演じること」だろうと考ええるようになりました。今、必要なことは「強い大人を演じること」だろうと思うのです。

サッカークラブであれば、子ども達の本当の笑顔を引き出すためにサッカーを通じて出来ることをしなければならないと思うのです。

こんな時だからこそ私たちの出来ることをしましょう！もちろん、それはサッカーに限りません。1つ1つは小さな力ですが、皆さんで日本を元気にしましょう！アバンツァーレジュニアサッカークラブからのお願いです。

最後になりましたが、この度の震災でお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに復興にご尽力されている方々の安全、ご活躍を祈念申し上げます。



3月19日(土)

街のガソリンスタンドは長蛇の列。まだまだ車で移動が難しい中、集まれる子達で、近所のサッカー場で、小学生も中学生も混じってボールを蹴りました。



3月27日(日)延期になっていた、ジュニアチームの壮行会。

4月10日(日)はジュニアユースの卒業記念試合。どちらもほぼすべての選手が集まりました。





アバンの更なる取り組み！



フリーグ
名古屋オーシャ
ンズの森岡薫選
手も協力！



いつも熱血！
土井コーチ！

多賀城中央公園はご存知の通り、
ガレキの山…。



参加してくれた子ども達は、
なんと約140名！

アバンツァーレ山形の土井コーチが、被災地のサッカー教室にお手伝いに行ってきました。

今回、甚大なる被害を受けた地区の1つである多賀城市。その多賀城で、「サッカーで子ども達に笑顔を！」というテーマのもと、避難所などで生活している子ども達を集めてサッカー教室が行われました。実は、土井コーチは多賀城SC出身です。個人としてもクラブとしてもやれることは何かと、積極的に動き出しました。

様々な場所で、様々なイベントが「自粛」している中、被災地まっただ中の人達の意見は「やれる人が、やれることを、一生懸命に取り組むこと」

その言葉がとても印象的だったと土井コーチは言います。土井コーチの実家は多賀城市。多くの被害を受けた1人ですが、その日も誰よりも元気に子ども達と汗を流していました。

その他にもアバンツァーレというクラブとして「できることをすばやく行動に移すこと」に努めています。

クラブに送られてきた救援物資を避難所に届けて回ったり、ジュニアユースの選手達は、宮城県サッカー協会に毎日のように送られてくる救援物資の仕分け作業をボランティアとして参加しました。テキパキと動く選手達を見た被災地の方々「どこに行っても、子どもって素敵だな〜」とつぶやいていました。

太白会場（愛島郷フットサルクラブ）



今年度から、太白会場として使用していた長町南小学校のグラウンドが使えなくなりました。しかも、年度替わりの時期にあの大震災…。子ども達の「サッカーができる場所」はどうになってしまうのか…。コーチも頭を悩ませました。そして会員の皆様にはご心配とご迷惑をおかけしました。しかしながら、様々な方々のご協力を得て、愛島郷フットサルクラブを会場として練習を再開することができました。マイクロバスの送迎を活用して、月、火、金の3曜日に分けての練習です。皆さんにはご負担をおかけしていますが、唯一の救いは、人工芝のグラウンドという、サッカーをするには最高の環境だということです。子ども達の笑顔のため、努力を惜しまず、もっともっと良い練習を提供していきます！



最高の笑顔！



頑張ろう！

告知！

第21回
アバンカップ
6月開催予定！

夏の合宿も、キャンプも、
もちろんやります！

こうご期待！



3月6日、最高の仲間と
の最後の大会となった
ヒロスポーツ杯！
見事3位でした！

「最高」SAIKO
自分の思い出は「アバンで過ごした日々」です。卒業まで指折りというなかで色々思い出しながら、日々感じています。スクールで元気に楽しく、皆とミニゲームをしたことや、負けて悔しい思いをしたり「鳥小屋」までダッシュした事。チームの皆とJヴィレッジで、高め合い、競い合って合宿した事。「雷鳥フェスティバル」で富山に行ったり、「東北大会」で青森に行ったり。
そしてどんな時でも自分にはコーチと仲間がいてくれました。厳しく、時には優しくしてねいに指導してくださったコーチ。ゴールが決まったら皆で抱き合ったり、敗戦したら「次はこうしなきゃ」「ドンマイ」と声をかけ合った仲間。昼食と一緒に食べたり、サッカーの話をしたり、ドロッドロになった中田中央公園で練習した事。1つ1つ、何をどうもかがえのない大切な思い出です。このメンバーでサッカーできるのも、もう時間の限界がきているわけなので、皆とのサッカーを大切に、残りの時間をもっと楽しみたいです。
アバンでの小学校生活は最高でした。

※震災のため、紹介できなかった3月のかわらばん企画、作文コンクール 優秀賞の発表です。
優秀賞 太白会場 6年 平翔太くん
(現ジュニアユース中学1年生)



アバン参加型企画